

発電用風車解体に参入

SMFL 来春めど、青森で39基

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、グループ企業を通じ風力発電用風車の解体事業に参入する。2024年4月までに青森県にある2カ所の風力発電所の大型風車計39基を解体する計画。風力発電用風車の新設から解体までグループで手がける体制を構築するのは国内リース業界では珍しい。風車の解体需要の高まりを追い風に受注増を見込む。

風力発電用風車の解体工事を請け負うのは、SMFLグループのSMART(スマート、名古屋市西区)。風力発電事業を手がけるコスモエコパワー(東京都品川区)から(東京都品川区)から

を解体する。今後、ともにも新規設備に入れ替える計画。

スマートはアビツ(名古屋市中港区)とSMFLみらいパートナーズの中



解体するむつ小川原ウィンドファームの風車

古売買に関するネットワークを生かし、設備の解体、撤去から再販、再資源化まで請け負う。これまでに煙突や観覧車など、高所の解体工事を手がけた実績を持つ。

SMFLはスマートが風車の解体工事を請け負うことで、風車を新設する提案力も高まるとみる。今後、太陽光をはじめとする他の発電所の設備の解体にも取り組む。

今後、解体する必要がある国内の風車は急増する予想だ。日本風力発電協会(東京都港区)によると、風車の設計耐用年数は20年程度。03年から11年まで国内で年1000~2000基の風車が新設されており、これらが順次耐用年数を迎える。